

# 常総における地域づくりの実践 外国人との共生と災害からの復興

認定NPO法人

茨城NPOセンター・コモンズ  
たすけあいセンター「JUNTOS」

[www.juntos-joso.org](http://www.juntos-joso.org)

代表理事 横田 能洋

# プロフィール



- ・ 弟が聴覚障害があったことで、福祉に興味があり千葉から茨城大学へ。水戸で暮らす。
- ・ 学生時代に、障がい者関係のボランティア活動に参加。「こんな障害者福祉でいいのか」と悩む。1991年、バブル景気末期に、企業の社会貢献に取り組み始めた茨城県経営者協会に就職。米国企業の社会貢献を研究したらNPOの存在を知り、NPO研究会を立ち上げた。
- ・ 1998年にNPO法成立を受け、協会を退職。NPOの普及のため茨城NPOセンター commons を仲間と立上げ事務局長に就任。

# 私の住む常総市水海道森下町



関東鉄道常総線「北水海道駅」

# 私の「地域づくり」のきっかけ

22年前に妻の実家のある常総市に引っ越し

近所の方に声をかけられ、子ども会のお祭りを手伝い

子どもの中学校のPTAに関わろうとしたら、本部役員、  
会長をすることに

顔見知りができると「自分の地域」と思えるようになり、  
だんだん地域が見えてくる



# 「地域づくり」のポイント1

- ◆ 誰かが声をかけると地域の活動に参加するかもしれない人はいる

# 活動を始めた経緯

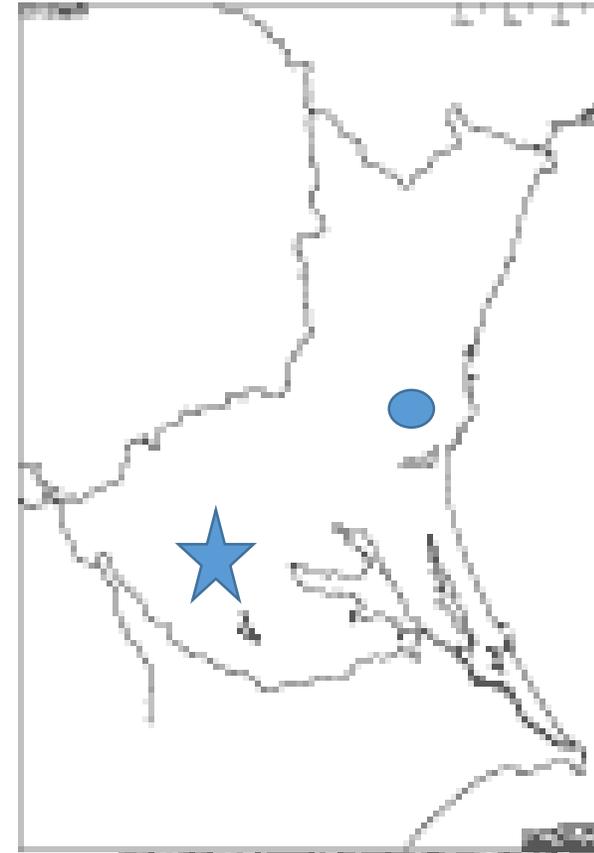
私の住んでる**常総市**（人口63000人）で4千人の外国人が住み、ブラジル人が多かった。交流できないか、と以前から思っていた。

2008年秋のリーマンショック時に派遣切りで多くのブラジル人も失業し、ブラジル学校に行けなくなる子どもが増えているという県外のニュース

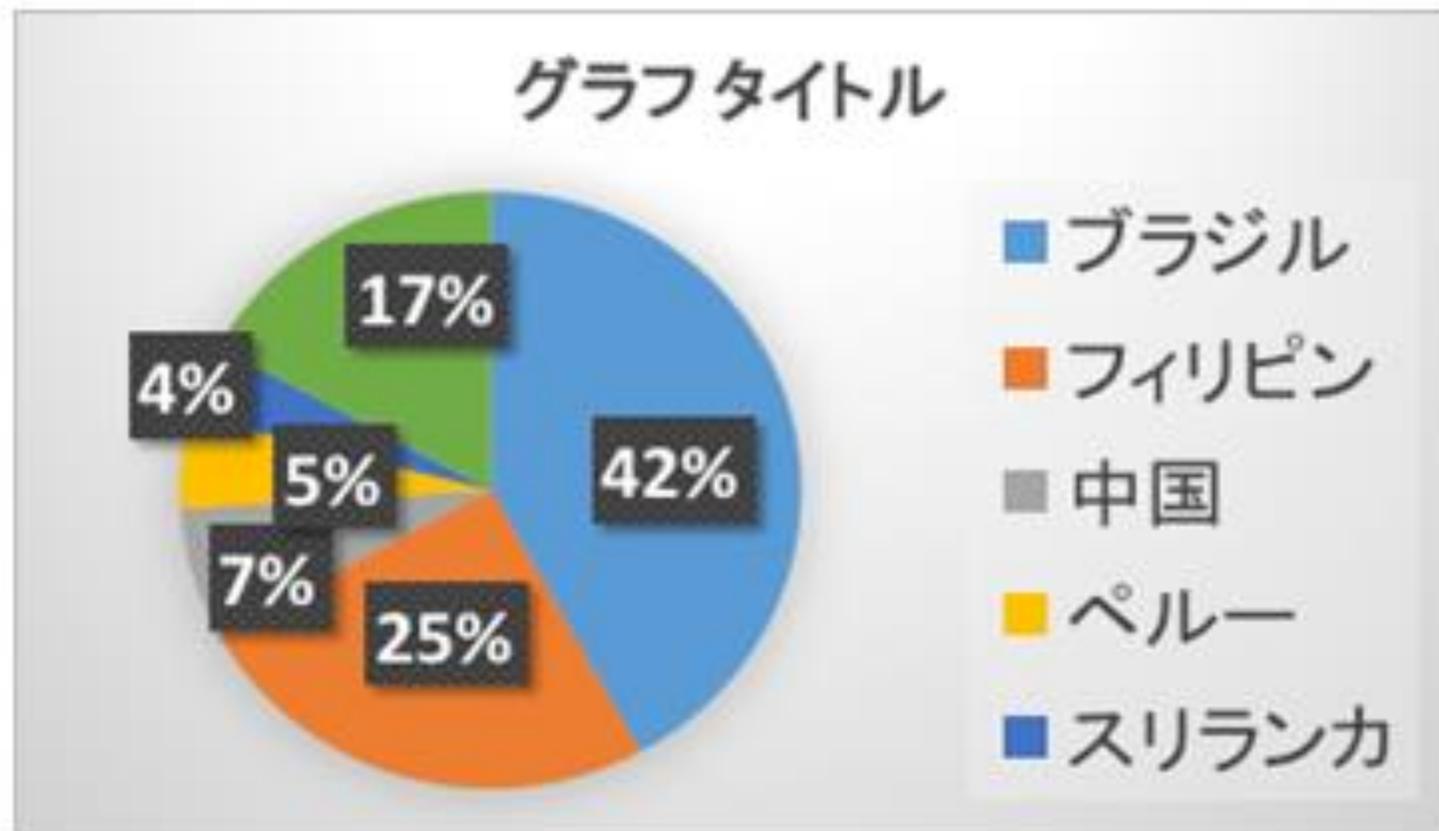
日本の子どもと遊ばないブラジルの子ども達

このままでいいのか、という疑問

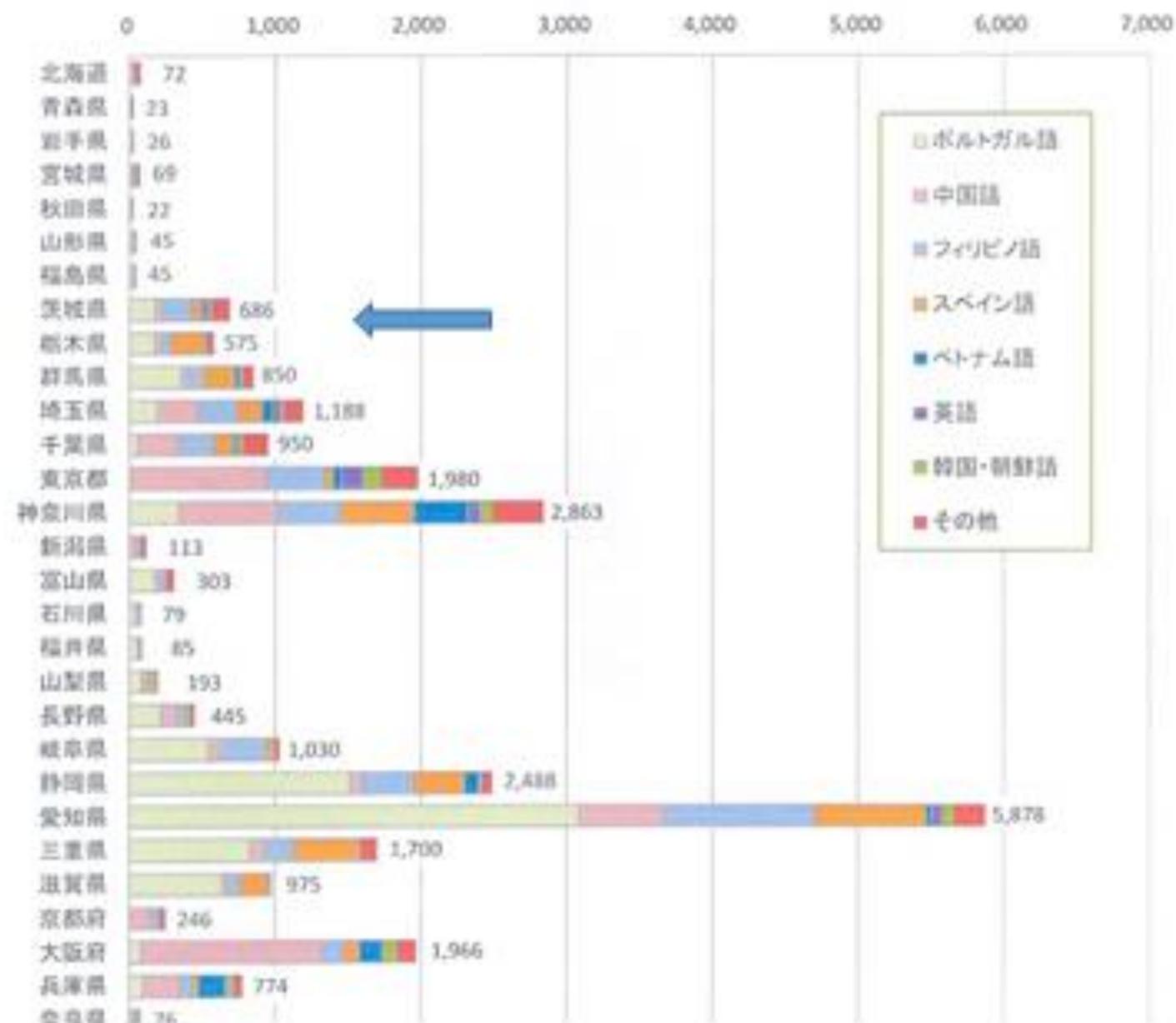
教育の現状を調べることから始めた



# 常総市の国別の外国人割合



③-2 日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況(都道府県別)



# 「地域づくり」のポイント2

◆ほっておけないと思うコトや人があらわれると人は動きやすい

Ano 2009: Projetos consignados das atividades para promoção dos direitos humanos da Província de Ibaraki

## 誰もが安心して暮らせる 地域づくりを考えるつどい

Encontro para a criação de uma região onde todos possam viver com sossego.

Com intérprete (PORTUGUÊS)

Poderá fazer perguntas sobre o que deseja saber em relação à educação dos filhos, e se houver alguma dificuldade gostaríamos de ouvir e pensar juntos numa solução.

### ～A forma de acolher os trabalhadores estrangeiros e

### suas famílias na região～

Os trabalhadores estrangeiros tem cumprido um papel importante nas indústrias de manufaturas, nas indústrias primárias da província. Além disso, dentro da província, a começar pela cidade de Joso, tem crescido o número de locais em que há grande número de residentes brasileiros “nikkei”. Realmente, vivemos numa época onde várias culturas coexistem e, um dos desafios é formar programas locais para convivência com estrangeiros os quais possuem línguas e culturas diferentes da nossa.

Principalmente, o item de apoio ao aprendizado e o da pré-escola tornou-se um grande problema. Por outro lado, em meio aos novos desafios surgidos na região, percebe-se em vários locais, movimentos de cooperação entre o governo, as empresas e as sociedades comunitárias. Neste momento, este encontro, tem como tema a forma como poderia se colaborar para a criação de uma região onde coexistem variadas culturas. Vamos tomar conhecimento dos programas existentes dentro e fora da província. Dessa forma, estudaremos a partir de agora, as possibilidades de cooperação.

Data 23 de março de 2009(segunda-feira) 14:00 às 17:15

Local Mitsukaido City Haitsu- Sala de reuniões

(Joso-shi Yamada-cho 1502-10 ao lado da saída leste da estação de Mitsukaido, no condomínio público residencial, 1 andar)

Como não há estacionamento, utilize o estacionamento do Centro de Aprendizagem da cidade de Joso(“ Joso shi Shougai Gakushu Centa”)

Conteúdo Palestra 「Responsabilidade das empresas em relação ao problema de



- ハローワークの通訳をしている方との出会い
- チラシを翻訳してくれた
- ブラジルショップや教会に思い切って飛び込む



ブラジル料理 なかなかおいしい！！

誰もが安心して暮らせる地域づくりを考える集い

2009年 3月23日

参加者40名



# 3ヶ月の日本語研修を計4回



150名もの人と出会う

# 「地域づくり」のポイント3

◆地域の困りごとに関して開かれた対話の場をつくると、それまで出会っていなかった人がそれぞれの問題への取り組みや想いを共有すると、そこから何かが生まれる

# 県外国人就労就学サポートセンター受託 常総にもNPOの事務所を開設



## ヘルパー講座



## 履歴書・面接・日本語の勉強



# 茨城における外国のこどもの教育課題

- ・ 小学校の4割、中学校の6割に外国籍児童生徒がいるが、特に多い学校は県内の一部
- ・ 義務教育の対象外（いなくなるかも知れない存在）



加配教員や国際クラスが少ない。通訳も不足

子どもは日 本語が読 めず苦勞	親も教育 支援がで きない	教師も 孤軍奮 闘状態	学習支 援ボラが 少ない
-----------------------	---------------------	-------------------	--------------------

**ダブルリミテッド・・・母国語も日本語も身につかず、  
夢ももてず、進路を開きにくい状況を改善したい**

# 「地域づくり」のポイント4

- ◆ 財源確保は、行政資金だけに頼らず助成財団に何度でも申請する。お金がいたら人を雇うという発想ではなく、雇用を維持しスタッフを育て、そのための財源をなんとか確保するという発想が大切



# 保育所生活 日本語で



子どもに日本語を教えるフィリピン人スタッフのマラバナン・ビビアンさん。常総市水海道橋本町

日系アメリカ人から在日外国人が多い常総市の保育所が「多文化共生」を掲げ、外国人の子にも日本語や学校生活のルールを教える就学準備に注力している。学校になじむ学習面で取り残されがちなため、事前のサポートが重要。4月の改定入籍法施行で外国人労働者の増加が見込まれ、支援のモデルとしても注目されそうだ。

## NPOで 外国人の子就学支援

「いかに英語を」・軸東 人「茨城NPOセンター」・時、子どもが英語に手を合 わせた。「この日は旗のフラ イヤじじいの動物など、島、学校生活に慣れること を意識して小学校給食の献立 を準備した。

取り組むのは、NPO法

イリピン国籍、計9人の職

## ひらがなの「勉強」も設定

興のうち3人は外国籍だ。職員は母国語しか話せない児童にも基本的な日本語で話しかける。就学を控えた子どもにもひらがなを教える「勉強」の時間も設定した。他園の子どもが対象のクラスもあり、授業は「祝 礼」で始める。教えるフィリピン人スタッフのマラバナン・ビビアンさん(43)は「日本語が分からない親が多く、家庭学習は難しい。入学後に助かるはずだ」と話す。

外国人職員は育児の様子を母国語で連絡帳に記し、園に丁寧に報告する。小学校の入学説明会では通訳も組んだ。

常総市は大手食品メーカーなどの工場があり、外国人が多く勤務。昨年1月1日時点で、市の外国人比率は7・31%と、全国平均の1・96%を大きく上回る。「モンズ」は、市の委託を兼ね他にも在日外国人支援事業を展開。保育所は運営費を稼ぐ、園の負担を減らす。

「モンズの横田隆彦代表理事(51)は「日本人が働く深夜や早朝シフトで働く外国人、その中でも就学準備が足りない。将来の就労支援を伸ばしてあげたい」と話す。

# はじめのいっぽ保育園



# 「地域づくり」のポイント5

- ◆ 継続性のある財源確保を目指すならニーズと収益が見込める事業が何か検討し行政と相談しながら事業の確立、人材確保に取り組むこと

# 中学生のアフタースクール



# 日本語、英語、宿題を学習



# 子どもがITを使って、親世代にゴミの出し方を伝える



## 「地域づくり」のポイント6

- ◆子どもを介して各世帯とつながったり、子ども向けのイベントや食事会を企画することで調理や食材の提供、趣味を生かした活動など「それなら手伝える」という人の参加を引き出すこともできる

# 2015年9月10日のあさ

- 常総市の横田家の近くには鬼怒川という大きな川が流れています。
- よく川の土手に散歩にいりますが、いつもと景色がちがいます。



平成27年9月10日



# 2015年9月10日の洪水



# 4日水没したコモンズ事務所



# 水害の復旧で立ち上げた活動

活動分野	活動内容
J (情報)	『JUNTOS通信』や多言語ラジオ番組の制作
U (運転)	ボランティアによる移動サービス、カーシェア
N (直し隊)	住宅の改修支援、空家を地域の活動拠点として再生
T (届け隊)	支援物資を自宅や引っ越し先に届けつつ見守り
O (お話し隊)	住民が話し合うサロンを開き住民の声を復興計画に反映
S (住み隊)	孤立しがちな人が、地元で共に暮らせ「福祉長屋」づくり
(学習支援)	被災した中学生の高校受験のための無料塾

# 地域防災は生きぬくための学びであり、地域づくりそのもの

## 避難地図を作る

どこを通過して、誰と、どこへ、逃げるか、どこが危険か、どこに高い建物があるか、公衆電話、AED、消火栓がどこにあるか

## タイムラインを作る

災害発生時のリスクが高まった時に、どの段階で何をやるか、いつ、どこに、誰と避難するか、

## 自主防災組織を作る

行政任せではなく、自治会、学校、ボランティア団体で組織を作り、日頃から顔の見える関係を作りシュミレーションや訓練を重ねていく

## 避難所の受け入れ態勢作り

最低限の資機材の配備、車椅子でもこられるスロープ、電源、トイレ避難所の運営マニュアル 係、配置を決めておく

## 避難訓練をする

避難所開設訓練、住民、特に要配慮者が場所を見ておくことが大切  
近所で声をかけあい、関係性を作っておく

## 情報伝達の仕組み

携帯の電話番号を登録しショートメールで連絡。今、何世帯いるかわかること、支援物資が来たことを伝える手段があれば、在宅に支援が届く

# 「地域づくり」のポイント7

- ◆地域の不安（ピンチ）を何とかする活動をする  
ことで、人のつながりを育む安心な地域づくり  
が進められる

# 自主防災 二度と逃げ遅れないために

## 避難マップ作り



# 2015年の浸水状況と避難する際の危険箇所

森下町に続き、橋本町でも、住民による街歩きをし、危険が潜む場所や高い建物がどこにあるか模造紙に貼り、それを元に地図を作成しました。

地図データには標高で色分けされたものもあり、水害時の浸水の深さに合うように調整しました。どこが深くなるか、わかるように何度も作り直しました。

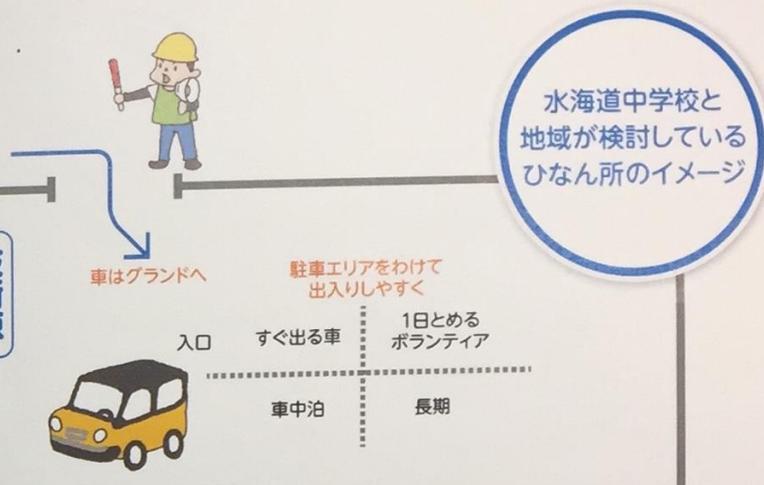
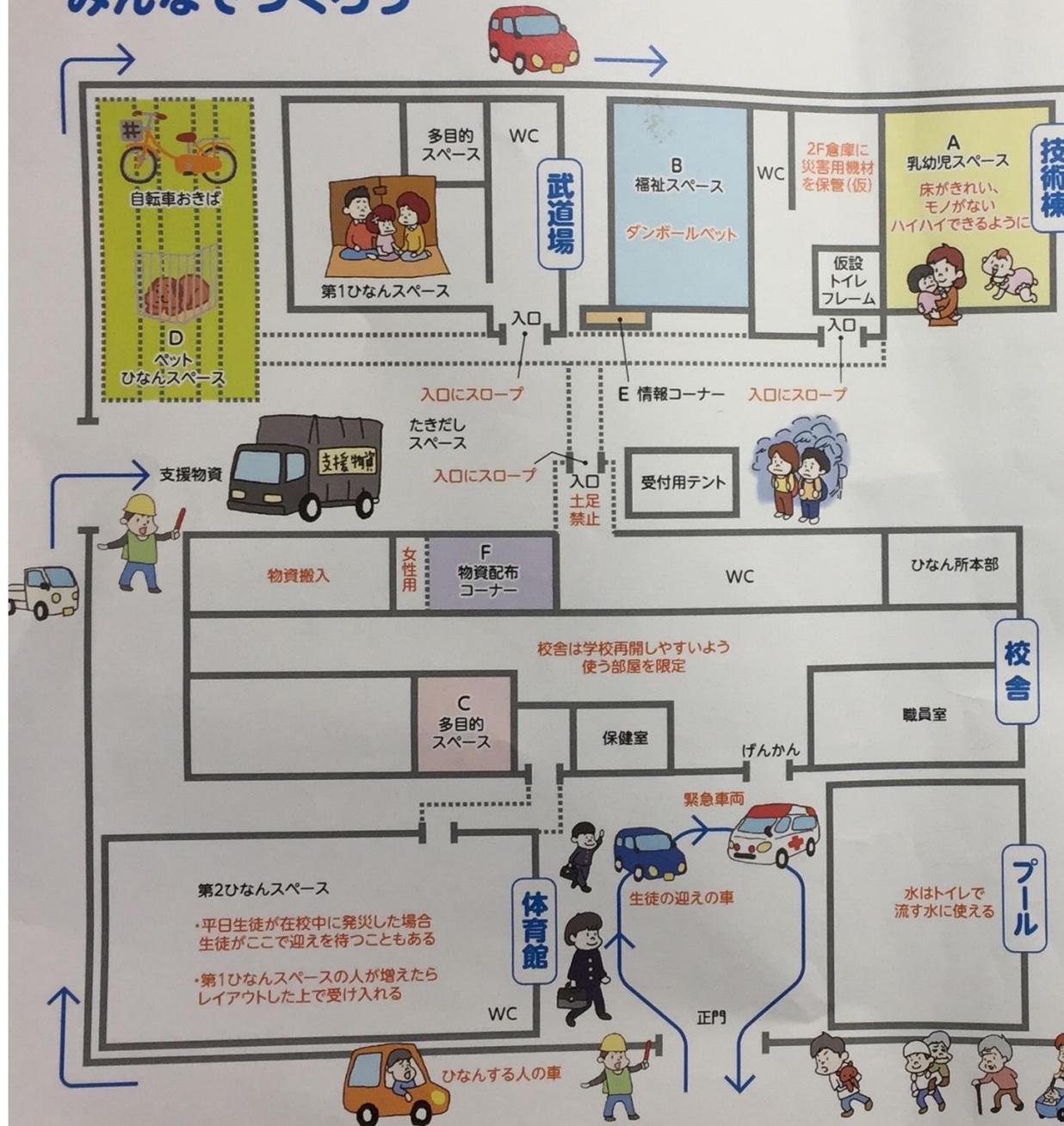


★① ★② ★③ ★④ ★⑤ ★⑥ ★⑦ ★① ★② ★③ ★④ ★⑤ ★⑥

# 「地域づくり」のポイント 8

- ◆ 地図づくりは自分たちが地域を知る、取り組みやすい活動

# 誰もが安心してひなんでできる場を みんなで作ろう



## 集まった人で避難所運営チームを作る

担当	最初にする事	次にすること
施設	建物や水道等の破損状況と危険な場所の確認	部屋割り見直し、入室禁止区域設定
情報	受付設置、避難者人数把握、予定や情報を知らせる掲示板の設置	避難者名簿作成管理。行政との連絡避難者への伝達。多言語での伝達も
見守りケア	具合が悪い人を発見し行政や医療支援者に伝える。要配慮世帯の把握	感染予防のため衛生環境作りと維持辛そうな人に声をかけ改善策を検討
物資	倉庫の資機材設置や食料等の配布	支援物資の要請、受取、配布
トイレ	水で流せるか確認、OKならプールなどから水を確保。ダメなら水を使わない防災トイレ設置。要配慮者むけに洋式便座や仮設トイレを設置	

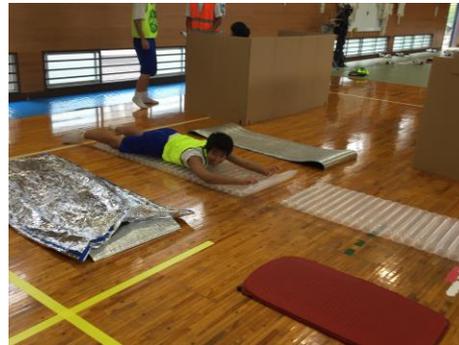
各班のリーダーで運営会議を開き、避難者の要望や状況に応じて部屋割りやルールを決めたり、必要な物を行政や支援団体に要請。避難者にも協力を呼びかけ自治を作る。

## 多様な人に配慮したスペースを作る

- A 乳幼児スペース**  
ハイハイできるような清潔で物が落ちていない床赤ちゃんが泣いても気疲れしなくて済む部屋
- B 福祉スペース**  
トイレに近い、又はポータブルトイレがある。寝起きや介助がしやすいベッドがある部屋
- C 多目的スペース**  
赤ちゃんの授乳、着替え、人に見られたくないこと(注射、体拭き、相談など)ができる個室
- D ペット避難スペース**  
室外犬は屋根付きの屋外、室内犬や猫が入ったケージが置ける部屋を作る
- E 情報コーナー**  
新聞、ラジオ、テレビ、被災者向け支援情報がわかる掲示板
- F 物資配布コーナー**  
オムツ、医薬品、衣料、日用品など分類。衣類はサイズごと、生理用品など女性専用コーナーで
- G みんなが使えるトイレスペースを工夫して作る**  
膝が曲げられない→和式トイレには洋式便座をかぶせる  
狭くて介助者が入れない→布や段ボールで敷居を作りトイレの空間を拡げたり、ポータブルトイレで仮設トイレを設置。段差もなくす。

# 市の防災訓練に併せて森下橋本合同避難訓練をします 12月15日（日） 9時半～11時半 避難先 水海道中学校

- 1.なるべく徒歩で近所で声をかけながらお越しく下さい。  
(ペットがいる場合はケージに入れて)
2. 避難所に持っていくものをリュックに入れて持参してください。
3. 新しくなった海中の体育館を自分で確認しましょう
4. ダンボールベットやテント、トイレなど体験しましょう。
5. 避難所運営も体験しましょう  
(施設班、物資班、ケア班、情報班、トイレ班などを設けます。
6. 炊き出しもします



# 常総オリジナル防災セット



# 「地域づくり」のポイント9

- ◆ 防災とゴミ、外出支援は国籍や所得に関係なく  
共助でなんとかしなければならないテーマ

# 誰もがいける避難所開設訓練@海中



# 今年の台風時のショートメールでの連絡



10月12日(土) 10:21

常総市の自主避難所は今は市役所のみですが、11時から生涯学習センター、坂手体育館、石下福祉センター、石下総合体育館も開くそうです。

森下町のウエルシアは今日は15時で閉まる予定。セブンイレブンは未定とのこと。常総線は午後には運休のようです

ビバホームは本日は12時で閉まります。うおまつも時間未定ですが早く閉まるそうです。自主避難所には必要物資の支給は



10月13日(日) 1:31

これまでは自主避難でしたが、先ほど避難勧告が無線で知らされました。鬼怒川、小貝川の水位上昇によるものと思われま。避難所が増えたか確認中

避難所として、学習センター、水海道小学校、一高が開設されます。物資がどれくらいあるかわかりません。食品、毛布は持った方がいいです。

10月13日(日) 4:19

NHKニュース防災というアプリを入れ、常総市の



10月13日(日) 6:08

鬼怒川増水で避難指示になっています。一高、海小とも200名以上避難していてスペースは限られています。海小はグラウンドから車で入れます

避難所に行く時は、自分の使う毛布、枕、スリッパ、飲み物、食べ物、薬など持参しましょう。避難する前に、家の荷物を高いところにあげましょう

レストランや家がこわされていく



近所の人がいなくなる、のが さびしい



# 「地域づくり」のポイント10

- ◆空き家を使って色々な人が集える場をつくり、その拠点に助け合える関係をつくる



# 空き家を活用した共同住宅づくり

阪神大震災直後、家を失った人が孤立せず安心して暮らせる住宅として、全国初のグループハウスができて19年になります。このハウスをつくり運営してきた中村大蔵さんをお呼びしてくわしくお話を伺います。中村さん曰く、グループハウスは「高齢者の自律協働居住空間」、普通に近い生活（生活リハビリ）で最後まで自分らしく過ごせるそうです。空きが増える中、私には個人宅でも福祉施設でもないグループハウスを常総市にも作ろうとしています。一緒に書えてみませんか。※裏面の新聞記事もご覧ください

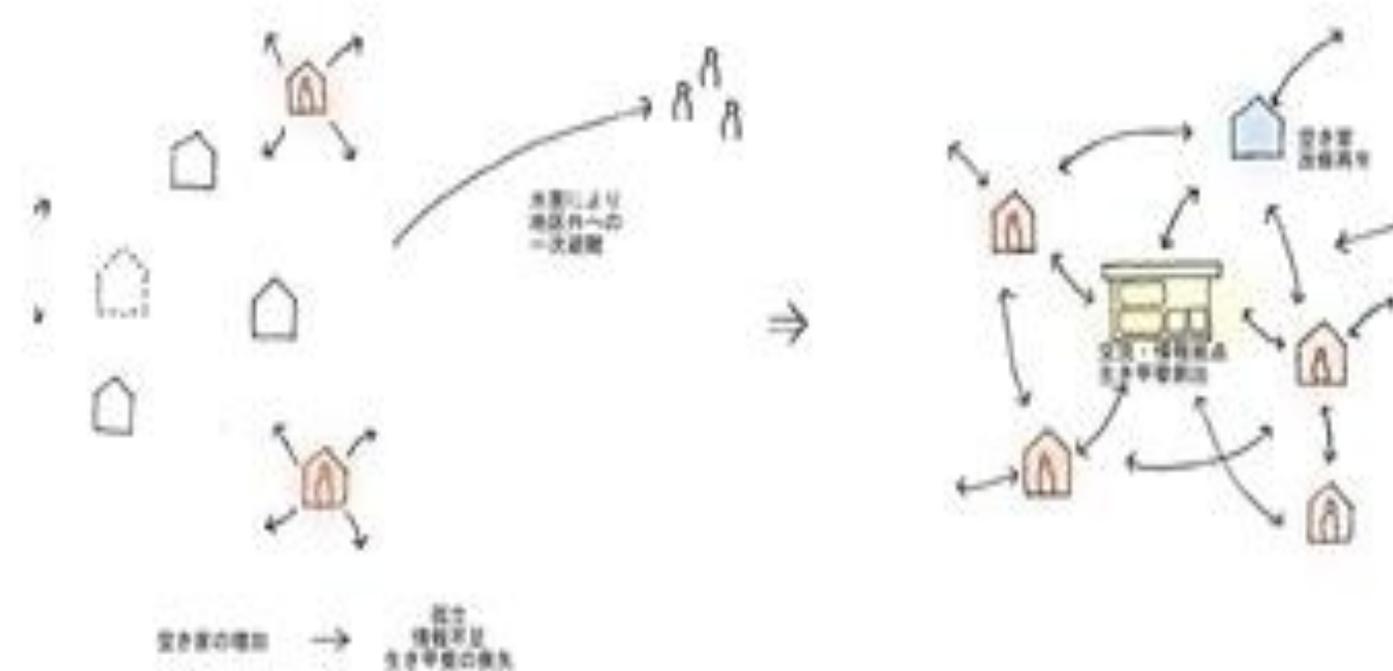
▼日時：6月28日(火)10:00～15:00

午前：講演会 午後：常総でのハウス作り説明会

▼参加費：無料

▼場所：生涯学習センター2階創作室 常総市水海道天満町4684

講師 阪神医療生活協同組合 理事長 中村大蔵さん



1945年徳島生まれ  
 大学卒業後、阪神医療生活協同組合  
 小中島診療所の地域相談員として勤務した後、  
 社会福祉法人阪神協同福祉会の設立にかかわる。  
 昭和63年から特別養老ホーム「岡三郎」を設立。  
 阪神経済大賞受賞後、ケア付仮設住宅や「グループハウス尼崎」、  
 宅老所などを運営。  
 活動範囲は広く、ハンセン病関係、ホームレス支援、  
 南アジアの高齢者福祉、貧困問題など。

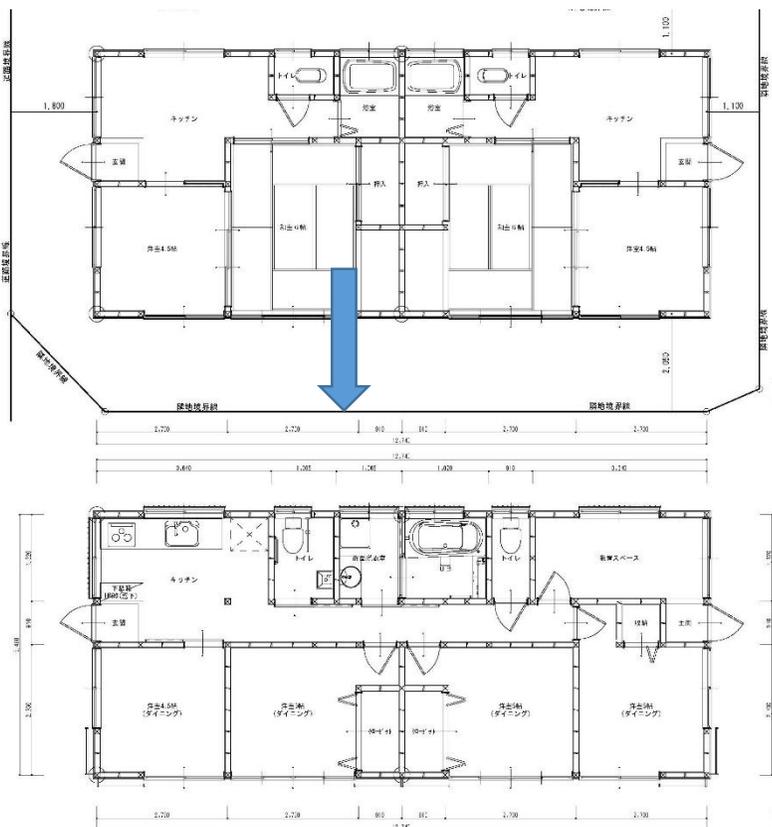
主催：たすけあいセンター「JUNTOS (ジュントス)」  
 常総市水海道森下町4455-2  
 茨城NPOセンター・ commons常総事務所内  
 TEL:0297-44-4281 (担当：安永)

# 空家を修復して居場所を作る



## 経費を削減して住宅を再建した事例2 Hアパート

- 森下町の戸建てアパートの1階も泥水に浸かったままの状態でした。大家さんから直して使ってほしいとの話があり、最初に泥だしと石膏ボードや断熱材の除去を行いました。廃材の産廃処理費で30万円くらいかかりました。泥を落とした床板を張り直し、消毒して一時期は倉庫として使用していましたが、3年近く空き家状態でした。改修費の補助が見込めることになり、下図の改修図面を作成し2020年12月から3ヶ月間の工期で改修を実施しました。もともと2世帯向けの住居の壁と柱をずらし5室の部屋と共用の台所、風呂とトイレをつくる改修です。車いすで室内の移動ができるよう設計しました。

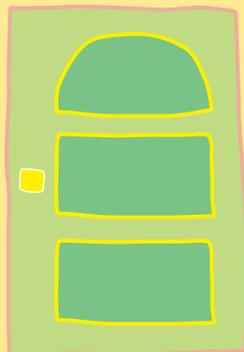
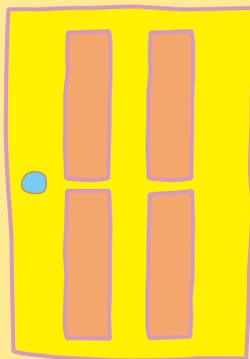


改修作業の工程	誰が実施したか
床板上げと泥落とし、床下の泥とりと乾燥	発災から3か月以内にボランティアで実施
壁紙、石膏ボード断熱材撤去、消毒	
床下の大引き、根太、桘回しの設置	大工が施工しつつ、DIYでも実施
床板の上と壁に断熱材設置	DIYで実施
部屋の仕切り変更に伴う筋違い増設	大工の助言をえつつDIYで実施
床板、石膏ボード設置	DIYで実施
配線付け替え（2世帯を1世帯に）	配線とスイッチ、コンセントづくりは有資格者がDIY。配電盤交換、200V電線引き込み、東電手続きは電気屋さん
上下水管敷設	水道工事やさんに依頼
一つのトイレと風呂のスペースを拡張	大工の助言をえつつDIYで実施
風呂スペース拡張に伴う柱付け替え	大工の助言をえつつDIYで実施
ユニットバス設置のための基礎工事	業者の指示のもとブロックで土台づくりをDIYで実施
ユニットバスの搬入組み立て	専門業者に依頼
ドア枠やフローリングの設置	大工さんに依頼
台所のレンジフード、棚、流し台の設置	新古品をオークションで購入しDIYで設置 配管は業者
壁紙はり	DIYで途中まで行っていたが途中から内装業者に依頼

# シングルマザー専用 シェアハウス 入居者募集中！

えんがわ  
ハイツ

小さなお子さんを育てながらシングルで生活されている女性の方専用のシェアハウスが、茨城県常総市にオープンしました。アパートを2019年に改築し、3家族まで入居できるようになっています。安定したお仕事や住まいが決まるまでの一定期間ご利用いただけます。シェアハウス「えんがわハイツ」で、仲間と、私たちと一緒に生活の再スタートをきりませんか。



個室：6畳（鍵、クローゼット、タンス）  
共用：キッチン（IHコンロ3口）、洋式トイレ2か所、風呂・洗面所、洗濯機、リビング、物置部屋  
調理器具や食器、自転車・車の貸出あり

徒歩10分以内にNPOが運営する保育施設、学童保育あり  
えんがわハウス内での作業（事務・飲食・配達・リサイクル等）を仕事として提供可能

就職・子育てなどについての相談支援できます  
ポルトガル語、英語、タガログ語での通訳支援あり  
常総線北水海道駅から徒歩2分

利用料：家賃1か月34,000円（電気、水道光熱費の共益費と相談支援費含む。） 敷金は入居時に家賃1月分  
お問い合わせ：NPO commons 横田 090-8854-0831

運営 茨城NPOセンター・commons

電話：0297-44-4281 E-mail: juntos@npocommons.org

〒303-0003 茨城県常総市橋本町3571

シェアハウス内写真は裏面へ

# 見学できます お気軽にご連絡ください

えんがわ  
ハイツ



キッチン  
冷蔵庫・食器棚

洗面所 バスルーム  
みんなできれいに使しましょう

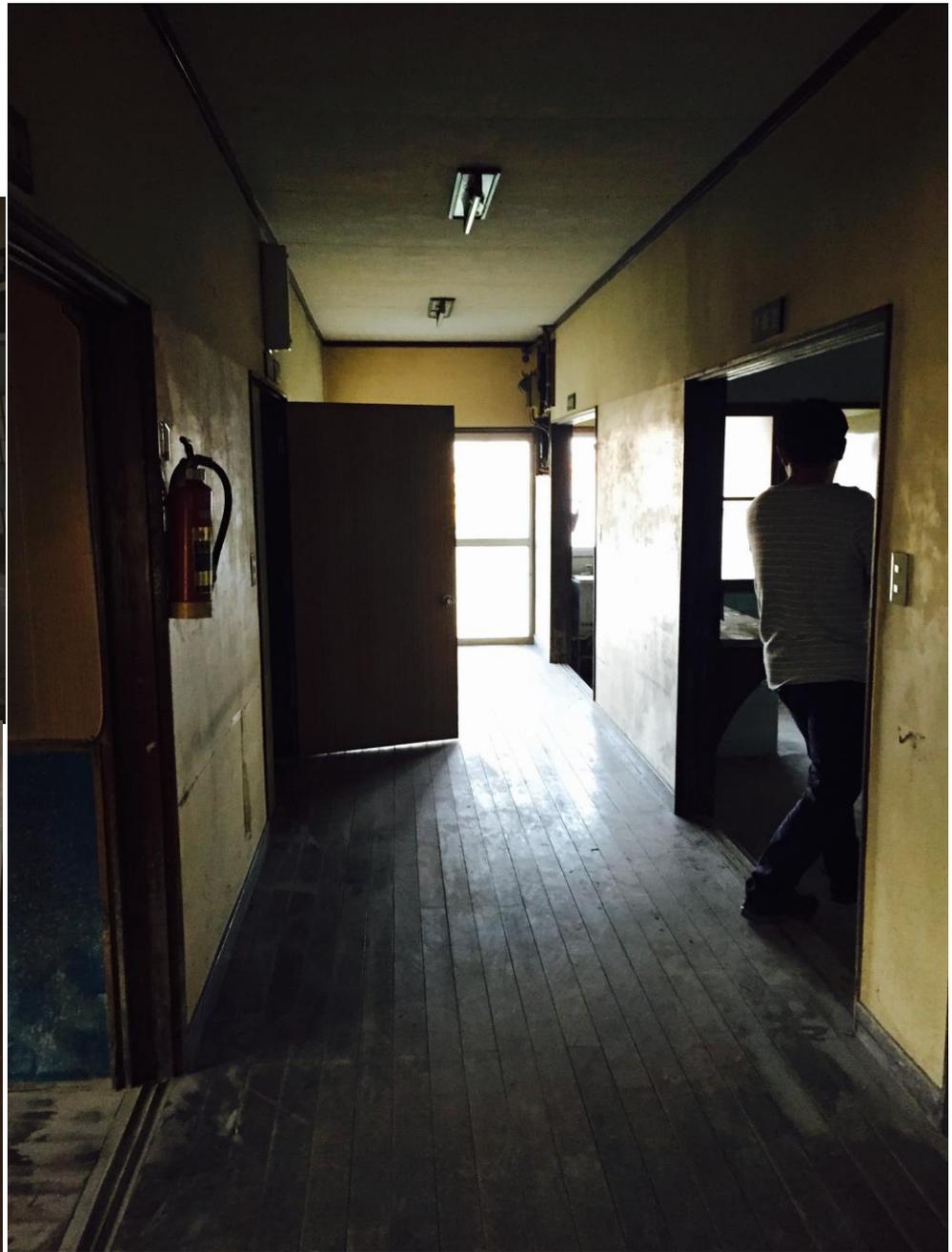


トイレ  
2か所あります

内観

個室 クローゼット付き

# 空き家になっていた診療所



# 「地域づくり」のポイント11

- ◆住んでいた方のご遺族など持ち主が片づけられないでいる空き家については、片づけや改修を申し出ると使わせてもらえる可能性がある

# ボランティアの手でリビングが保育室に



ジュントスが橋本、森下で進めている、  
最後まで安心して暮らせる街づくり



現在の片野医院



将来のイメージ (案)



医院の建物 イメージ (案)



片野医院全体模型

改修プランは、みなさまと一緒に考えていきます。

## 片野医院の建物や庭を残し

## 生活再建と地域復興の拠点として皆で活用しよう

2015年の水害の際、浸水が3日以上続いた水海道森下町や橋本町では大規模な改修を諦め、家を解体したり、町を去らざるを得なかった方が多くいます。皆が集っていたファミレスや店も相次いでなくなり、空き地が増えています。

そんな地域が少しでも住みやすくなればと、私たちは旧片野医院と隣接する住宅の保存と改修を昨秋からボランティアや近隣の住民の皆様と続けてきました。

水害の時まで40年以上続いていた町の診療所や、この地区では珍しい築百年近い古民家、そして広くて気が安らぐ庭を、壊し無くしてしまうのではなく、地域の皆さんが集い、自由に活用できる場として皆の力で再生させること、それが復興につながると思うからです。

保存・改修の目的 片野医院を次のようなコトができる場として再生させましょう

旧医院は

- 「サロン待合室」 待合室でのご近所の井戸端会議がまたできるように。
- 「くらしの保健室」 健康や介護、生活サポートの相談ができる。
- 「まちの保育室」 子を預けたい世帯に小規模な保育サポートを提供。
- 「水害を学ぶ展示室」 過去の水害を忘れず、今後の防災に生かせる。

住宅は

- 「みんなのリビング」 読書や将棋、日向ぼっこなどをしてくつろげる縁側。
- 「みんなの宿」 水海道の景色を見に帰ってきたい人や訪ねたい人が泊まれる宿。
- 「もりはしキッチン」 皆でご飯を作ったり食べたりできる食堂。
- 「もりはし公民館」 習い事、公演、集会など、やりたいコトができる場所。
- 「こどもの秘密基地」 子ども達が共に遊んだり、先輩から教わったりして異年齢交流。

庭や敷地は

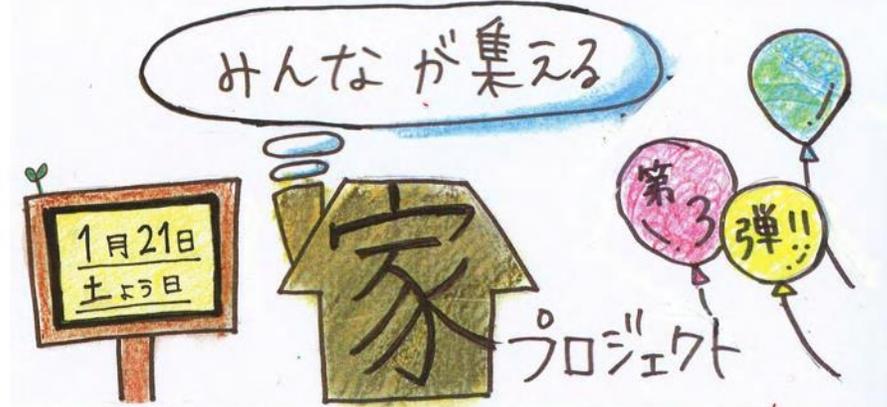
餅つき、花見、バーベキュー、月見など季節や食を味わいながら楽しいイベントで交流  
花壇作り、野菜作り、ドックランなど、自宅ではできないことも一緒ならできます

これらを実現するには、多くの皆様のご賛同、カンパ、ボランティアが必要です。  
ここでこんなことをしてみたいというアイデア、ご要望もお聞かせください。  
できることで結構ですので、夢の実現のために、ご参加とお力添えをお願いします。

たすけあいセンターjuntos (水海道森下町4335) tel 0297-44-4281

web [www.juntos-joso.org](http://www.juntos-joso.org) mail [juntos@npocommons.org](mailto:juntos@npocommons.org)

# えんがわハウスのプロジェクト



旧片野医院の母屋

築100年の古民家をおなさんと一緒にふけがえらせておませんか?  
 今回のプログラムは、根太の清掃と消毒、建具の洗浄などを行います  
 古民家に興味がある方、修繕体験をしてみたい方、ぜひご参加ください

第2回の様子

大量のごみを  
 たくさん  
 回収して持ち去る



泥出し



泥水を取った  
 上皿の土をとりまわす  
 この姿勢もつい  
 きれいになると  
 達成感  
 行方

当日の予定

9:30 集合-お茶会  
 10:00 作業開始  
 12:00 昼食  
 14:30 おやつ  
 15:30 解散

Juntos  
 ハウスに  
 集合して下さい  
 車は

お屋は  
 本格カレー  
 です♡

- 服装 - 汚れても良い格好
- 雨天 - 決行です!!
- ★ 当日参加もあり!!!

一申し込み  
 たすけあいセ=9-Juntos  
 常総市水海道森下町 4335  
 0297-44-4281

おいしい人もおばあちゃんも  
 おとなもこどもも...  
 叶——んな来てね★  
 来てます◎

2017

# 被災した空き家を多文化・多世代交流拠点に

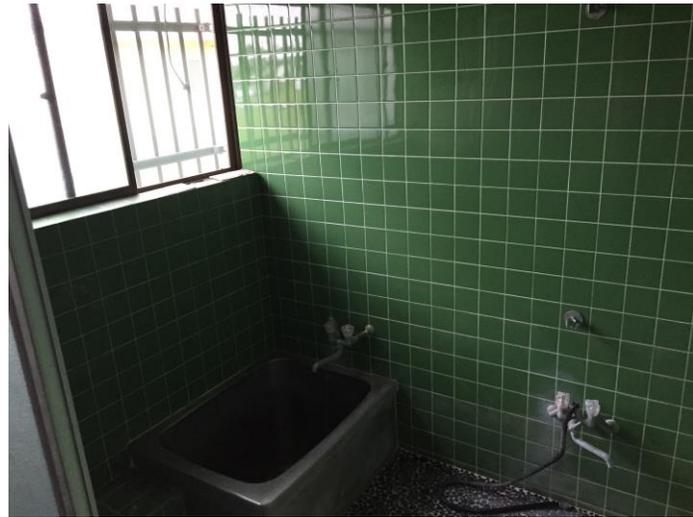


# 様々な食を通じた交流



# 「地域づくり」のポイント12

- ◆ 人とのふれあい、達成感のある作業、夢のある改修プラン、を準備することが地域外からのボランティアが3年も続けてきてくれた要因



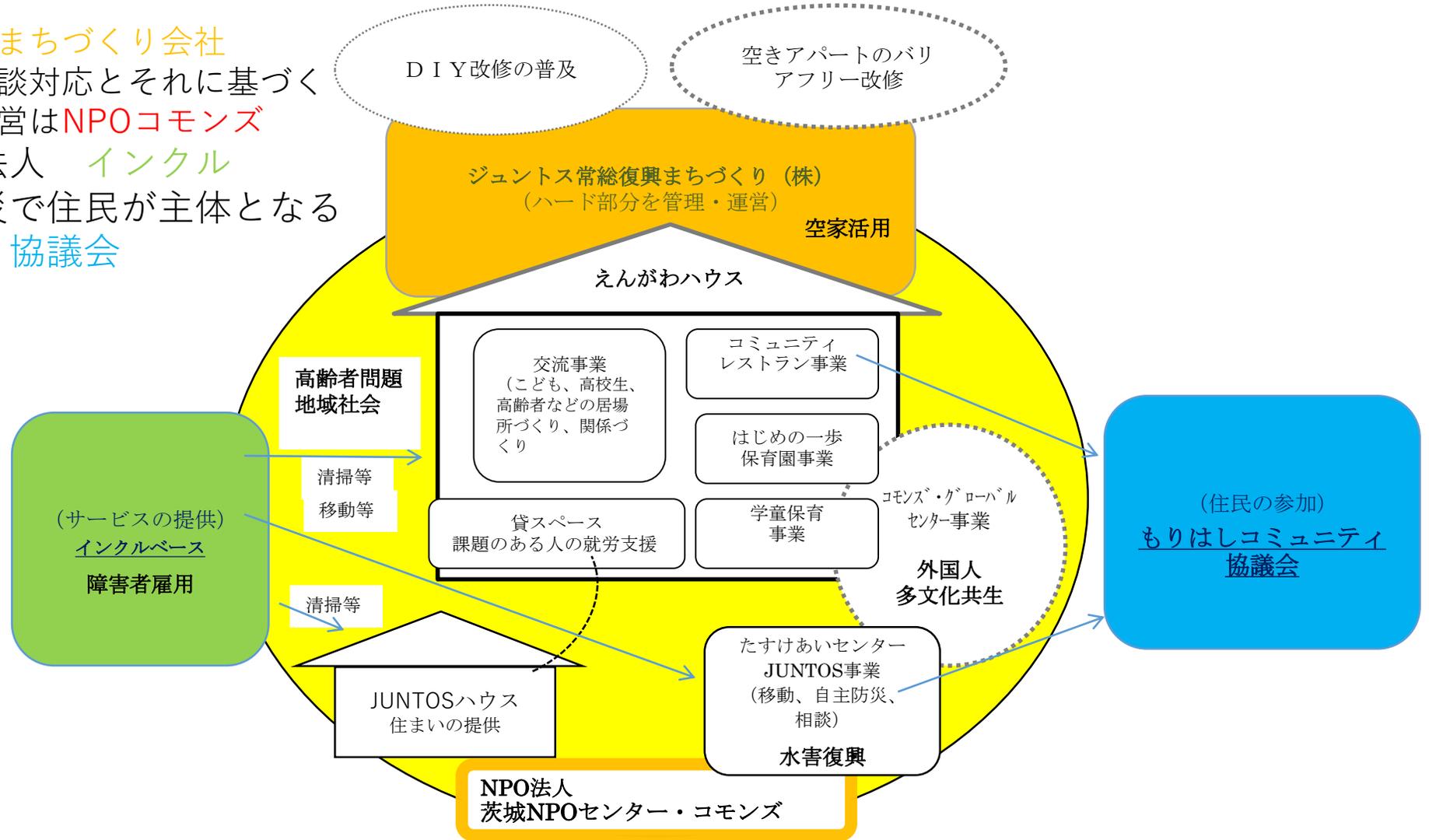
## これまでの常総での取組みのまとめ

- ◆2009年 リーマンショックを契機に外国人支援事業を受託として（日本語教室、キャリア支援、相談）
- ◆2013年 自主事業で外国ルーツの子の学習支援、進学支援を実施 ...現在まで外国人支援を実施
- ◆2015年 鬼怒川水害による諸問題が発生（復興、外国人支援、空家問題、人口減など）  
「たすけあいセンターJUNTOS」事業スタート...復興支援（情報、移動、高齢者、防災等）
- ◆2016年 「JUNTOSハウス」オープン（借家）...復興の拠点、学習支援、地域の人との交流
- ◆2017年1月 障害者就労支援として「インクルベース」を設立。
- ◆2017年10月 「ジュントス常総復興まちづくり（株）」設立  
「えんがわハウス」が国土交通省スマートウェルネス住宅等モデル事業に選定される
- ◆2017年12月 県産業大県基金の補助で、「えんがわハウス」の住宅棟を保育園に改修
- ◆2018年4月 「はじめのいっぽ保育園」事業スタート...認可外保育園スタート
- ◆2019年3月 「えんがわハウス」の土地建物を株式会社で取得
- ◆2019年4月 「えんがわハウス」診療所部分の改修工事 10月14日えんがわカフェプレオープン
- ◆2020年1月 カフェ運営を自主防災を担う「もりはしコミュニティ協議会」を法人化
- ◆2020年2月 「えんがわハウス」母屋の改修とアパートの改修が終わるがコロナで地域への開放が困難に。
- ◆2020年4月 「はじめのいっぽ保育園」の0-2歳保育が常総市の認可保育園へ移行
- ◆2020年7月 アパートをシングルマザー向けシェアハウスとして運用開始

2019年の台風被災地はじめ全国の水害被災地に常総の復興の取組みを伝える活動に取り組む。

# 常総の事業体制図

- ・ 建物の改修・資金管理は **まちづくり会社**
- ・ 被災者や外国籍住民の相談対応とそれに基づく交流事業や支援の企画運営は **NPO commons**
- ・ 障がい者就労を担う法人 **インクル**
- ・ カフェでの交流や防災で住民が主体となる **もりはしコミュニティ協議会**





# 「地域づくり」のポイント13

- ◆空き家活用の場合、借りて使用するか、購入するかの選択は大きなポイント



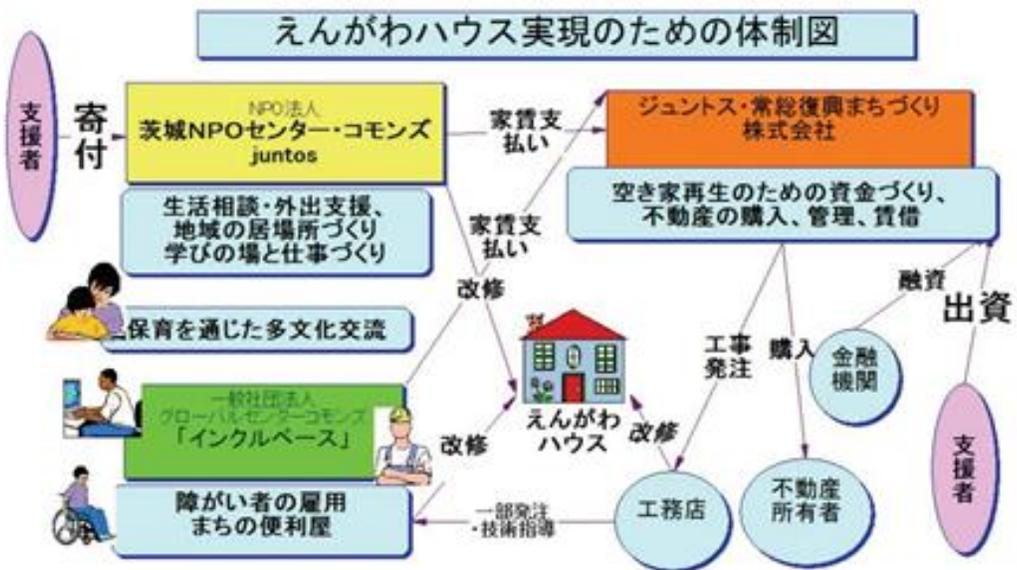
# 「地域づくり」のポイント14

- ◆大きな改修で公的資金も入れて行う際は志のある建築士や工務店の協力が不可欠

えんがわハウス実現のための費用		資金調達方法	
土地建物取得	3000万円	出資	500万円
改修・設備費	3140万円	寄付	1000万円
合計	6140万円	行政補助	2140万円(選定)
(土地の一部は購入までの間、賃借予定)		融資	2500万円
		合計	6140万円

寄付はNPO commonsが受け入れ、改修費と土地購入費に充てます。認定NPOであるcommonsへの寄付は寄付控除の対象になります。

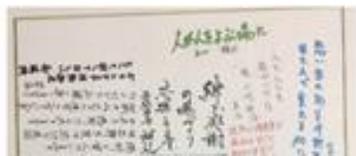
出資と融資(金融機関・個人)は株式会社が受け、出資については1株10000円、議決権と配当なし、株主優待サービスはあり、となります。



NPO commonsは移動支援と相談対応、多世代交流の企画、さらに多文化保育事業を行います。障害者雇用を行うインクルベースは、施設改修とハウスの運営(接客、調理、介助など)と地域の人たちの家事支援、片付け支援、などを担います。二つの団体がハウスに入居し、雇用とサービスを生み出しながら、家賃を会社に払います。会社は、団体からの家賃収入、ハウス利用者からの収入の中から借り入れの返済を行います。

支援をご検討いただける方は、下記までご連絡ください。

茨城NPOセンター・commons  
(中央労働金庫水海道支店 普通No 5009041)



常総水害の被災者支援にご協力いただいた皆さま

## 常総復興の拠点「えんがわハウス」実現のためお力添えをお願いします

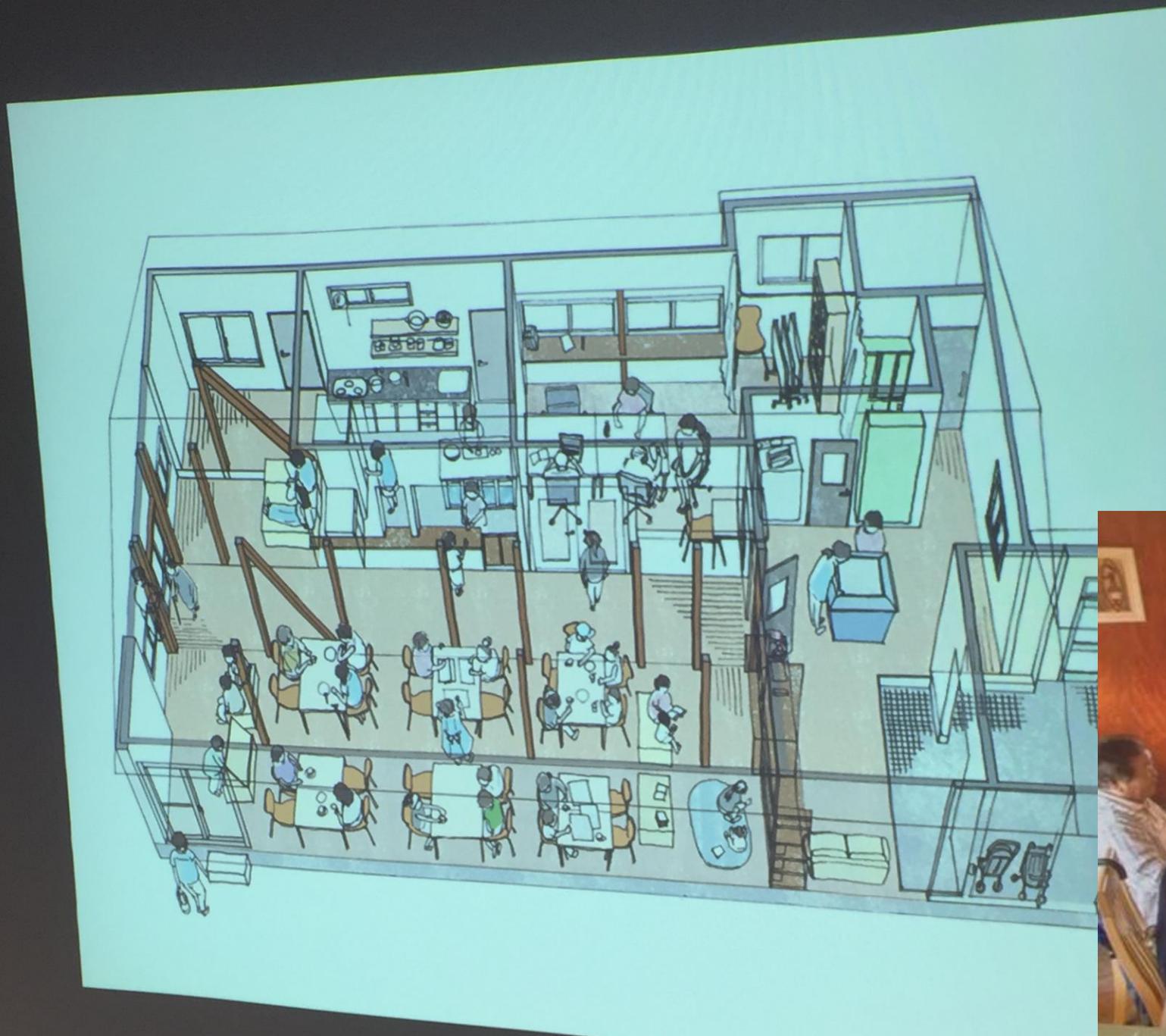
いろいろな人が集い、仲間や生きがいを得ること、次世代を育てること  
災害からの復興に繋がります



常総市の復興における課題は、持ち主が直せない空家の増大と人口流出、店舗の減少、高齢者などで引きこもりがちの人が増えていることです。地域の再生に取り組む中で、水害前日まで診療が行われていた「旧片野医院」と築100年の住宅が片付けられていないままになっていることを知り、地域の方々からも、この場を残し活用することを望む声が多く寄せられました。

私たちは一昨年の秋からこの家の片付けや泥落としの作業に取り組んできましたが、500坪の土地と建物を購入しなければこの場を残せない状況に直面しました。この場を地域の拠点に再生するには、土地購入に約3000万円、さらに改修に3000万円の費用が必要です。

そこで新たにジュントス・常総復興まちづくり株式会社を設立し、国の補助事業(2000万円)に選定を受けました。それ以外の資金をつくるために、NPOの寄付、会社への出資、貸付の形で資金を集めることになりました。





# 「地域づくり」のポイント15

- ◆ 苦しい時に心の支えとなるような言葉をもつこと。  
信念をもって自ら取組み、それを発信していけば応援してくれる人はきっと現われる、と信じること。

多世代・多文化が交わるえんがわハウスで  
空き家を生かした水害復興のモデルを創ります

応援よろしくおねがいします。

